

先生との意見交換

木材業界、行政と、先生とでグループを構成、意見交換会を実施しました。会議では、技術科を取り巻く現状と、木育の要素を取り入れるにあたっての課題を洗い出し、その結果を教材や授業展開に反映させるための方策について検討しました。

Sapporo 札幌地域での意見交換



- 道産木材を活用することについては、教材価格に折り合いが付き、教材業者が対応できるのであれば、使えるのではないかと。
- (間伐材などの人工林材については、)木材を使っていくことが正しいと我々教師の側も最近認識したところ。

先生方の声

- 技術の時間は減少傾向にあり。木工に割ける時間も少ない。必修科目であれば、木工だけでなく、金属、プラスチックなどを併せた複合素材のほうが使いやすい。
- 教材については、指導に慣れるまで、3年くらい掛かり、いきなり新製品を渡されても簡単には使えない。



先生方の声

- 木材を使ったものづくりをやっている。地材地消については考えたことがなかったので、説明を聞いて良かった。
- 木育については今なぜなのかという疑問があるが、勉強していきたい。



- 教材を選ぶ時間がない。価格、作り易さなどで選んでいる。
- 旭川の先生方は木工が好きな先生が多く、一枚の板から生徒に自由に製作させる、生徒の独創性を伸ばすような形の授業スタイルを好む先生が多い。

Kushiro 釧路地域での意見交換



- 来年に入ってくる生徒からは、新学習指導要領に基づいた授業となり、選択教科が無くなるので、木工の授業は時間確保の関係から、難しくなると思われる。
- 釧路管内は技術科の専門の先生が居ない状況で、研究会のような取組みもなく、このような意見交換会には感謝。

先生方の声

- 技術の授業は教材の価格、時間数の制限など、色々な問題があるところではあるが、日本の木を使うのは良いことであると思う。
- 限られた時間の中で木工、金工、プラスチック、電気等のものづくりの授業を実施しなければならず、融合教材を用いて複数の範囲(木工+プラスチック等)をあわせて教えている学校もある。



課題の抽出とその検討

技術の時間でも、地域の森林や林業・木材産業について学ぶことは学習指導要領の趣旨にも一部沿うものであることから総論としては賛同を得られましたが、実施にあたっては課題と検討が必要です。

課題

- ①授業時間数が減少傾向にあり、木工以外にも金属、プラスチックなどについても取り扱う必要がある。
- ②新たな教材に対応するには、指導になれるまで時間が掛ること。
- ③教材価格に折り合いがつくこと。

検討内容

- ➡時間数については、現状の時間数の中で、木育の要素をコンパクトに盛り込むことが必要。
- ➡新たな教材については、各校の先生にも協力していただき、複数の先生が試作をし、指導に当たって意見交換を重ねて情報を共有。
- ➡道産木材を使った教材はすでに多くが流通しており、先生や教材業者が教材の選択する際に道産の木材を使っているかという視点を持ってもらうため、行政や木材業界の情報発信が必要。